

G2アルゼンチン共和国杯

<最終見解>

本命はチャックナイト。

父のハーツクライは当レース相性良いトニービンの血を持つ馬。
過去 20 年の同コース重賞でハーツクライ産駒は最多の 8 頭の連対馬を出しています。
特にキャリア 15 戦以内のフレッシュな馬は 5 頭出走して 3 勝。

アーティットは母父が欧州指向の馬力では最上級のガリレオ。

ディーパインパクトの産駒はハーツクライに比べると
当レース相性悪いですが、ハーツクライの方が、馬力が上なのも要因。

ディープ産駒ならば日本では相性の悪いガリレオとの配合馬で
馬力を強化されるぐらいの方が当レースにはマッチしそうです。

G3みやこS

<最終見解>

京都開催では父米国型ノーザンダンサー系、米国型ナスルーラ系の成績優秀。
米国指向のスピード持続力が重要なレース。

本命はメイクアリーブ。

父は2019年にも人気薄で1、2着したエーピーインディ系。
同じくエーピーインディ系の兄ヴェンジェンスも京都ダート重賞で複数回連対。
前走馬体重が478キロとダート重賞に出る馬の中では
コンパクトな部類なのも当レースでは有利。